

2020年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2021年3月31日
研究・研修課題名	まめネットを活用した病診薬連携システムの構築と双方向情報共有の向上のための基礎検討
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院・薬剤部
研究・研修責任者名(所属)	北郷 真史(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	北郷 真史(薬剤部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(該当なし)
該当者名(所属)	北郷 真史(薬剤部)
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

近年、病院・診療所・薬局間の連携強化が強く求められている。2020年度の診療報酬改定では、外来化学療法加算の評価の見直しがなされ、医療機関と薬局との連携強化等を目的とした連携充実加算(150点)が新設されてもいる。患者の診療や支援のさらなる向上において、病診薬連携、特に情報の双方向共有は極めて重要である。島根地域の医療情報ネットワークシステムである「まめネット」は、病院間や、介護サービス連携等の情報共有ツールとして活用されており、病診薬連携にも有効に利用できるツールと考えられる。

本研究は、まめネットの活用に着目し、病診薬間における連携の体制やシステムの構築、双方向情報共有の向上のための基礎検討を行うため、薬剤師を対象としてアンケート調査を行い、現在の利用状況や求める機能、問題点などを収集し、解析する。

② 方法

県内の薬剤師を対象としてまめネットの利用状況や求める機能、問題点などに関するアンケート調査を実施した。病院薬剤師と薬局薬剤師では業務形態が異なる部分があるため、病院薬剤師、薬局薬剤師ごとに別途アンケートを作成した。

アンケートはアンケート作成ツールである SurveyMonkey を用い、web 上で行った。

また、本研究はしまね医療情報ネットワーク協会に許可を得た後に実施した。

③ 成果

病院薬剤師を対象としたアンケートでは、県内 48 施設、274 名を対象とし、うち 35 施設、159 名(58%)より回答を得た。

■まめネットの利用状況について

まめネットは、回答のあった病院薬剤師の約 88% (140 名) に認知されていた。しかし、そのうち実際に使用したことがある薬剤師は、37 名(約 26%) と少なかった。

使用者のまめネットの使用方法としては患者入院時、持参薬確認時の利用が多く、主に連携カルテサービス、調剤情報管理サービスの利用が主であった。

■まめネットの使用感について

(様式1)

使用者がまめネットを使用した感想についての設問では、約 6 割から使いにくいとの回答が得られた。まめネットの利用頻度が低い要因にも関連すると思われるが、操作方法がわからないといった使用者側の問題のほか、病院カルテシステムとは別にログインが必要であることや、他施設での同意が取れておらず必要な情報が参照できないことがあるといったシステム上の問題点をあげる回答が得られた。

■まめネットに求める機能

まめネットに求める機能に関する設問では、

- ・他施設の医師、薬剤師の記録や薬局薬剤師の記録や調剤情報の閲覧機能、
- ・トレーシレポートのまめネット上での運用
- ・保健薬局からの患者情報の報告機能

といった、病診薬連携に関連する機能の要望がおおくみられた。

以上より、現状での病院薬剤師のまめネット利用は少ないものの、病診薬連携に使用するツールとしてのニーズは高いことが明らかとなった。今回のアンケートより得られたまめネットの問題点、要望をまめネットのシステムに反映し、薬剤師の業務、病診薬連携にまめネットを有効活用することで、当院、および地域における薬物療法の質の向上に寄与できると考える。

現在保険薬局薬剤師にも同様のアンケートを実施中であり、得られた結果を統合してしまね情報報告ネットワーク協会に報告するほか、関連学会で発表する予定である。